



1 創立100周年記念式典・祝賀会を挙行了しました

2 生徒会長「誓いの言葉」

2 2011年度事業決算

3 創立100周年記念事業募金寄付者芳名

3 第1回卒業生顕彰式を実施しました

4 100周年編纂余話、明校ひとくちメモ

創立100周年記念式典・祝賀会を挙行了しました

副校長 坂口 泰 通

11月17日(土)、神田駿河台の明治大学アカデミーコモンにおいて本校創立100周年記念式典・祝賀会が挙行された。来賓、本学関係者そして高校Ⅲ年生徒あわせて約600人が参列をした。また、高Ⅱ以下の在校生は、明治大学リバティータワーにおいてサテライト中継で参加をした。

式典は本校在校生の保護者、日高のり子さんの司会進行により進められた。オープニングセレモニーは吹奏楽班による祝典曲から始まり、在学時代に数々の映画賞を獲得した映画部出身の学生制作のDVD「明大明治100年の軌跡」など、どれもが来賓の琴線に触れるものであった。

オープニングセレモニーの後、開式、日高憲三理事長の「式辞」にはじまり、金子光男校長の「式辞」へと続いた。金子校長は、創立者岸本辰雄先生、初代校長鶴澤總明先生が託された建学への想いと、それを受け継ぎながらも現在を生きる我々の不易の想いなどを、約5000字にもわたる式辞に込められた。これは本校関係者のみならず、

多くのご来賓の心に響いた。また、芦沢柚香生徒会長(高Ⅱ)の「誓いの言葉」も印象的であり、本校近隣の私立中高の先生方の評判も高かった。厳かな中にも心の通った式典であり、壇上での講話が終わると自然と拍手が巻き起こり、まさに、来賓の方々と一体となった式典であった。特別にご臨席を賜った初代校長鶴澤先生の御子息やお孫様も、この式典を心から喜ばれた。

第Ⅱ部は、本学理工学部教授向殿政男先生の軽妙あふれる講演でにぎわった。

祝賀会は、地元調布市の長友貴樹市長、三鷹市の清原慶子市長をはじめとする、新キャンパスに関わりの深い方々の祝辞が続いた。そのほか、本校出身の書家福島一浩氏からの寄贈書の紹介、王貞治氏*、三宅裕司氏(本校卒業生)のビデオレター、そしてアントニオ古賀氏(本校卒業生)の歌など盛りだくさんの企画であった。

※早稲田実業学校高等部在籍中の昭和33年8月3日に、全国高等学校野球選手権大会予選東京都大会決勝で本校と対戦。



日高憲三理事長



金子光男校長

誓いの言葉

第65期生徒会長 高校Ⅱ年 芦沢 柚香

毎朝見上げる校庭の木々もすっかり葉を落とし、秋の深まる季節となりました。今年、私たちの学校、明治大学付属明治高等学校明治中学校は、創立から100年という節目の年を迎えました。本日のこのような栄えある記念式典に、多数の来賓の方々、先輩の皆様方のご臨席をいただきましたことに、在校生を代表いたしまして心より御礼申し上げます。

私たちの学校は95年もの長い時間を御茶ノ水で過ごし、そして4年前に校舎移転と男女共学化という大きな転機を迎えました。学校が大きく変化していく中で、代々先輩方が受け継いできた伝統をどう繋いでいくか、私たちはその方法をずっと模索してきました。そして新生明治5年目にして、私たちはやっとその答えを見つけることが出来ました。答えは我が校建学の精神にありました。質実剛健、独立自治。岸本辰雄先生が時流に左右されることのない学校をと、この学校を創立されてから100年間もの長い間受け継がれてきた、本質を見極め、自らを律し自らを治めるという建学の精神です。

女子初の生徒会長と応援団団長、また100周年記念紫紺祭開催などと新しい挑戦ばかりであった今年、新たな試みは御茶ノ水以来の伝統を途切らせてしまうのではないかと、私たちは悩みました。しかし新たなものを創造することと伝統が途切れてしまうことは必ずしもイコールではないと気付いたとき、今まで言葉としての存在であった質実剛健、独立自治が私たちにとってひとつの実感となりました。新しいことに一歩踏み出す勇気とその一歩を受け入れる勇気こそが伝統を繋いでいく手段であり、またこれこそが今求められている、質実剛健、独立自治なのであると、私たちは気が付いたのです。100年もの重みのある伝統は何物にもとってかわることのできない大きな財産です。しかしだからといって、その歴史の重みに頼り伝統に甘んじるだけではいけません。私たちを巡る環境や価値観は着実に変化しています。私たちには、伝統の本質を見極めてそれを繋いでいきつつも、未来にむけて自ら考え、新たな行動を起こせる力が必要です。この力こそが質実剛健、独立自治です。100年前の建学の精神は今こそ必要なのです。

先日行われた100周年記念紫紺祭のテーマは「再び熾す！明治維新」というものでありました。金子光男校長からも「100年に向けて火を熾せ」と激励の言葉を頂きました。急速にグローバル化が進んでいくこれからの社会には、国という枠を超えた、地球規模の文化や価値観があふれています。私たちは、多様な価値観を理解し、時代を切り開き、社会を変革していくことのできる、強い意志と勇気を持たねばなりません。100年間という時間を超えて受け継がれる意志、繋ぐ思いを胸に、火を絶やすことなくこれからの100年へと、そして世界へと羽ばたいていくことをここに誓います。そしてご臨席の皆様これからも明治中学・明治高等学校と私たちを温かく見守ってくださるようお願い申し上げます。

2012年11月17日



誓いの言葉を述べる生徒会長の芦沢柚香さん

(単位：円)

2011年度 事業決算 (積立金)

2012年7月20日(金)に開催された、第13回創立100周年記念事業委員会において、2011年度の事業決算が承認されましたので、お知らせいたします。

なお、紙面編集の都合上、掲載時期が遅くなりましたことをご詫言申し上げます。

	予算額	決算額	差異	備 考
助成費	200,000	200,000	0	文化・芸術・スポーツ奨励奨学金(吹奏楽班)
旅費交通費	302,500	87,704	214,796	資料調査交通費等
業務委託費	1,750,000	910,080	839,920	100周年ポスターデザイン一式、紫紺ホール・正門横断幕取付
消耗品費	2,090,000	1,967,744	122,256	ラッピングバス関連消耗品、募金者粗品付箋、生徒用記念品(水筒)等
印刷製本費	565,000	555,870	9,130	事業ニュース1~3号、募金代振込用紙、100周年ポスター
郵便費	326,000	100,060	225,940	領収書・事業ニュース発送等
運搬費	5,000	0	5,000	
支払手数料	3,000	0	3,000	
雑費	52,500	52,500	0	富士見町自治連合会回覧板広告
合 計	5,294,000	3,873,958	1,420,042	

※残金は積立金に繰入れました。

創立100周年記念事業募金寄付者芳名

2012.6.1～2012.10.31まで到着分累計 99件 1336万円

715万5000円

明治高校同窓会総明会殿

50万円

明治白駿会殿

吉田 信行殿

35万円

向殿 政男殿

30万円

佐藤 仁殿

(株)明大サポート

代表取締役 石原 道勝殿

25万円

松本 隆栄殿

20万円

栗原 きみ殿

15万円

匿名 1名

12万円

明治高等学校総明会

チャリティ基金賛同者

一同殿

10万円

赤澤 忠道殿

朝倉 一寿殿

小笠原 涉殿

齊藤 信弘殿

中村 義幸殿

明球会殿

吉田 耕太郎殿

匿名 1名

6万円

伊藤 哲殿

大田原 健司殿

名村 祥夫殿

早瀬 文孝殿

森 久殿

山田 豊殿

横井 勝彦殿

匿名 1名

5万円

千崎 忠昭殿

中岡 久殿

山本 幸一殿

匿名 5名

4万円

丞村 裕次殿

3万円

朝田 尚宏殿

石神 鈴音殿

石川 裕之殿

石塚 愛子殿

板橋 正浩殿

一色 隆行殿

井出 義紀殿

小野 勝昭殿

勝又 健夫殿

神谷 隆幸殿

菊池 敏之殿

楠本 章殿

小磯 弘美殿

高 建剛殿

小谷 英太郎殿

小林 喜男殿

小山 修殿

齋藤 佳之殿

清水 裕二殿

新保 幸一殿

杉山 民二殿

関根 泰彦殿

関野 喜正殿

高野 純一殿

高村 潤殿

竹内 桃子殿

田中 一平殿

田中 勝江殿

千葉 秀俊殿

西川 明德殿

西川 悦朗殿

林 義勝殿

前川 秀樹殿

増田 雄太郎殿

三浦 直人殿

水元 真治殿

山崎 広行殿

吉田 裕殿

笠 和彦殿

匿名 19名

2万円

大久保 政純殿

1万円

匿名 2名

5000円

匿名 1名

金額表示希望なし

鈴木 幸夫殿

記念式典当日にはご臨席の皆様より多くのお祝金を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。

第1回卒業生顕彰式を実施しました

本校は9月29日、『卒業生顕彰式』を駿河台キャンパス紫紺館で実施しました。これは、創立100周年を契機に今年度初めて行われるもので、本校を卒業した以降も学業に精励し、司法試験合格など、優秀な成果を収めた卒業生の功績を称え、在校生の模範として顕彰するものです。この度は初回ということで25人が表彰されました。

式典には日高憲三理事長をはじめ大学役員、本校関係者が参列し、卒業生を祝しました。金子校長が式に出席した15人一人ひとりに表彰状を手渡し、続いて日高理事長が「社会に貢献する先駆者となっております

すの飛躍を期待する」と祝辞述べました。表彰者代表の大門誉幸さん（1996年卒）は、「高校時代は本当に楽しかった。明高への感謝の気持ちを忘れず頑張っていく」と謝辞ともに力強い決意を語りました。



100周年編纂余話

本年、2012年、本校は前身である明治大学附属中学校が開校した1912(明治45)年から数えて100周年を迎えました。これにあたり、今後の更なる発展をめざして、2011年度から実施してきた記念事業のひとつに記念史の編纂があります。

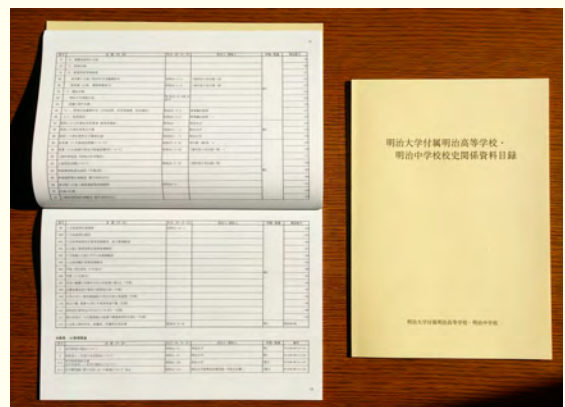
本校は、これまで記念誌として『六十年の歩み』、『創立80周年記念誌』、『九十年の歩み』を刊行してまいりましたが、これらの編纂に利用した資料は本校の火災、震災や移転(猿楽町から調布へ)もあり、散逸したものが少なくありません。そこで、創立100周年史編纂にあたり、校内はもとより明治大学総務部文書課・大学史資料センター、および国立公文書館、東京都公文書館など公的機関に所蔵されている明治大学附属中学校・高等学校に関連する資料の確認と収集(複写)を行い、その結果を目録として刊行することにしました。

確認または収集された資料の整理にあたり、半永久保存に耐えうるよう中性紙を使用した文書保存専用封筒を作成し、原則として資料を1点ずつこれに入れ、封筒の表紙には資料の内容や概要に関する情報(表題・内容・年月日・差出人・請求人・形態・数量など)を記載しました。この作業が完了してから、今回新たに定めた「明治大学附属明治高等学校・中学校所蔵文書分類項目表」に基づいて大項目、小項目に分類し、番号をつける作業をしました。

続いて、資料目録のデータベース化をはかるために、封筒の表紙に記載した内容を一件ごとに表計算ソフトに入力し、

冊子にしたのが『明治大学附属明治高等学校・明治中学校校史関係資料目録』です。

本目録の一部を紹介すると、本校の歴史に関わるものとして、明治末期の明治中学校の開校および太平洋戦争後まもなくの新教育制度開始に伴う新制高等学校、新制中学校の発足に関するものがあるほか、姉妹校である明治第二中学校、明治第二高等学校、明治大学附属八丈島高等学校の開校および廃校に伴う資料類があります。また、昭和戦前期の卒業記念写真や航空部の発足記念写真などがあります。この中には、帝国書院やオペラ歌手三浦環が明治中学校にグライダーを寄贈し、盛大に行われた同部発足記念式典の様子を伺うことができるものもあります。その他、本校には教職員や卒業生から寄せられた資料も数多くありますが、これまでの作業を一応の区切りとし、このたび『明治大学附属明治高等学校・明治中学校校史関係資料目録』を刊行しました。



初代校長鶴澤総明先生の墓碑を参拝

8月2日、金子光男校長、坂口泰通副長をはじめとする本校関係者11名が初代校長鶴澤総明先生の墓碑を参拝しました。この日は鶴澤先生の誕生日で、一同は墓前にて本校の更なる発展を誓いました。



明校ひとくちメモ

時は流れ

資料によると、終戦後、極東国際軍事裁判が始まり、鶴澤校長は日本側の弁護団長となり、校長を辞任しました。後任には大正時代から校長を助けてきた大橋教頭が校長となりました。そして、1955年10月21日鶴澤校長は老衰心臓マヒでお亡くなります。24日の大学葬では、当時の首相鳩山一郎、最高裁長官田中耕太郎、文部大臣松村謙三らをはじめ、生徒、学生、大学の守衛まで参列をされ、死を悼んだそうです。また、長年にわたり労を尽くしてくださった大橋留治校長も、1962年7月に80歳で亡くなられました。温かな方だったということでした。



● 次号のお知らせ ●

第6号は2013年3月上旬に発行予定です。